

編集方針

環境報告書の公表が、3年目を迎えました。昨年度は京都大学が環境への配慮として優先的に取り組むべき事項を「京都大学環境計画」として策定し、その中でエネルギー使用量と温室効果ガス排出量の削減に向けて明確な目標を定めました。さらに、その目標の達成に向けて今年度から「京都大学環境賦課金制度」が導入されています。その他にも、枯渇性資源由来廃棄物の削減への行動として、生協をはじめとする学内店舗でのレジ袋の使用削減運動が始まりました。大学としての取り組みがいよいよ動き始めた感があります。

京都大学では、上記以外にも様々な場面で環境への取り組みを進めています。この環境報告書は、その現状を学内構成員の皆さんに知っていただき、これまで取り組んできた環境配慮活動をさらに促進し、今後の新たな取り組みのきっかけとなることを目指しています。また、これをご覧になったすべてのステークホルダーの方々とのコミュニケーションツールとして、役立てたいと考えています。アンケート等で、ご意見・ご感想をお寄せください。

本報告書の作成にあたっては、京都大学環境・安全・衛生委員会の下に設置した学内教職員からなるワーキンググループが中心となり、執筆編集を担当したほか、一部教職員や学生の方にも執筆に加わっていただいています。

参考にしたガイドライン

環境省 環境報告ガイドライン～持続可能な社会をめざして～（2007年版）

京都大学環境報告書2008ワーキンググループ

設置:2008年4月

座長:佐治英郎 環境安全保健機構長

委員(50音順):浅利美鈴(環境保全センター助教)、井崎宏子(京都大学生協)、酒井伸一(環境保全センター教授)、新谷朋宏(施設環境部職員)、高橋裕美(環境安全衛生部職員)、戸松 浩(環境安全衛生部職員)、中植由里子(秘書・広報室職員)、中川浩行(環境保全センター准教授)、西嶋由孝(環境安全衛生部職員)、西村康久(環境安全衛生部職員)、日名田良一(工学研究科職員)、平井康宏(環境保全センター准教授)